

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(尾鷲高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		より豊かに社会生活を営むことができるよう、生徒一人ひとりの生きる力を高める学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・基礎的な学力を習得し、さらに自ら学び続けようとする生徒。 ・誰にでも、気持ちのよい挨拶ができる生徒。 ・規律を守ることができ、仕事をする上で必要なコミュニケーション能力が身についた自立した社会人
	ありたい教職員の姿	・チームワーク良く、明るく風通しのよい職場環境で充実して業務に取り組む教職員。 ・多様な生徒の一人ひとりに応じた適切な指導に取り組むことができる幅広い能力を持つ教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生 徒> 卒業して進学や就職をしたい。 <保護者> 卒業して進学や就職をしてほしい。学習指導と生徒指導を充実させてほしい。 <地 域> 将来地域で活躍する生徒を育成してほしい。				
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<table><tr><th>連携する相手からの要望・期待</th><th>連携する相手への要望・期待</th></tr><tr><td> <中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。 </td><td> <中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。 </td></tr></table>	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	<中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。	<中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。
連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待					
<中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。	<中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。					
(3)前年度の学校関係者評価など		ICTに関しては、社会に出てからも利用する機会が多いので、更に発展させて授業での活用を続けてもらいたい。現在、定時制は小学校・中学校時に不登校だった生徒や特別な配慮を必要とする生徒たちの受け皿を担っている貴重な存在である。これからもそのような生徒たちの将来につながるように、多くの人と触れ合う体験ができる環境を整えてほしい。令和 5 年度に行ったインターンシップはとても良い行事なので、これからも続けてもらいたい。人とのつながりを作るために、事業所などとも連携しながら教育活動を続けていただきたい。				
(4)現状と課題	教育活動	今後ますます、課題を抱えた生徒が増えてくると予想できる。これまで行ってきた基礎学力の定着に加え、人との接し方や社会で生きていくためのルールやマナーの育成も必要となると推測できる。尾鷲高等学校定時制という安心できる「居場所」としての日常的な活動を継続しつつ、インターンシップや社会見学など、多くの人と接する経験ができる場を用意し、体験しながら学んでいく環境も整えていく。				
	学校運営等	これまでと同様に、情報共有を密に行い、職員全員が共通理解をもって生徒や業務に対応できるようにする。また各自が自己の資質や能力の向上につながる研修に励み、研修等で得た知識を共有し、全体で利用していける仕組みを構築する。				

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・社会生活を営むうえで必要な ①基礎学力を定着させる活動を推進する。 ②規範意識を確立させる活動を推進する。 ③社会性を身につけさせる活動を推進する。
学校運営等	・教職員が生き生きと職務に邁進できるように、総勤務時間削減に努める。 ・生徒と積極的にコミュニケーションをとり、複数の教職員が関わりながら、きめ細やかな教育相談や支援を行う。 ・教職員が同じ方向を向いて生徒に対応できるように日頃から情報共有を心がけ、指導方法の確認を行う。 ・多様な生徒への適切な指導ができるように研修を行い、教職員の資質向上を目指す。

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・毎日の授業を大切にする生徒 ・目標に向かって、努力する生徒 ・あいさつができ、ルールを守って行動できる生徒
-------------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の 定着	・基礎学力の定着を目指す ・生徒の学習意欲を引き出す授業の実施に努める 【活動指標】 (1)各教科・科目の学習において、基礎的・基本的な部分の徹底を図る。 (2)生徒の学習意欲につながるよう授業を工夫し、個々の生徒に合ったきめ細やかな指導を行う。 (3)授業規律を確立するとともに、授業に集中できない生徒には粘り強く声をかける。 (4)将来の進路選択につながる学習を授業の中に取り入れることで生徒に卒業後の目標を持たせたり、集会で授業の意義を考えさせたりして、学習や授業に対する生徒の意識と意欲を高める。 【成果指標】 生徒アンケートで「入学してから自分の学力が伸びていると思いますか」に対して「大いに伸びている」、「伸びている」と答える生徒が60%以上となる。	(年度末および適宜記載)	◎

規範意識の 確立	・登校時や授業の合間など日常的に生徒への声かけを積極的に行い、生徒との信頼関係を深めながら、一人ひとりの学校生活の充実を図る。 ・問題行動やいじめは常に起こりうるという意識を持ち日頃から未然防止に努めつつ、発生時には迅速かつ組織的に対応する。 【活動指標】 (1)毎日、生徒の登校時に全教員で登校指導を行い、生徒一人ひとりと挨拶を交わしながら、声をかける。 (2)学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止と早期発見・対応に努め、きめ細かく相談や支援を行う。 (3)遅刻・早退・欠席等の多い生徒や不登校生徒には、声かけや面談を行い、家庭と連携して改善に取り組む。また必要に応じて、地域の関係機関と連携する。 (4)交通安全や学校敷地内喫煙・未成年喫煙の防止、スマートフォン等の使用マナー向上、薬物乱用防止などの学習や啓発に取り組む。 【成果指標】 生徒の問題行動やいじめの発生件数0件をめざす。発生した場合は、速やかに対処し、かつ継続的に対応していく。	(年度末および適宜記載)	◎
社会性の育 成	・社会人として必要な社会性と一般常識、仕事や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ・学校行事の充実、校外行事への積極的な参加に努め、生徒の良好な人間関係の醸成と高校生活の充実を図る。 【活動指標】 (1)登校時や職員室への入室時など様々な機会をとらえて挨拶を促し、コミュニケーション能力を高めるきっかけとする。 (2)日頃から生徒の努力を褒めることで、生徒の自信を引き出し、生徒が積極的に学校生活を送れるよう促す。 (3)在学中も働くことを奨励し、アルバイトを含め仕事に就いている生徒を増やし、生徒の仕事と学校の両立を支援する。 (4)生徒の進路希望に応じて個別指導を実施し、希望進路の実現を支援する。 (5)就労希望者や卒業時進路未決定者を支援し、卒業後もできる限りの支援を継続する。 【成果指標】 (1)卒業時に進学も就職もしない生徒を0にする。 (2)年間計画に沿って学校行事を着実に実施するとともに、定時制通信制教育関係の校外行事等に参加する。	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
チームワーク向上と環境整備	・生徒の状況や各自の仕事の進捗状況等についての情報共有・情報交換を一層励行し、協力して仕事を進める。 ・教職員が生徒に向き合う時間を確保し、職務に邁進できるよう、総勤務時間縮減に努める。 【活動指標】 毎日、勤務時間の始めに打合せを実施する。必要に応じ、授業終了後、勤務時間終了前までにも実施する。 【成果指標】 (1)全教職員が毎日の定時退校を徹底し、毎月の時間外労働時間をほぼ0時間とし、月45時間・年360時間を超える時間外労働をする教職員の0人とする。 (2)すべての会議は勤務時間開始後、生徒の登校までに実施し、60分以内に終了する。 (3)全教職員が年次有給休暇を15日以上取得する。	(年度末および適宜記載)	◎
教職員としての資質向上	学び続ける教職員としての意識を高く持ち、校外研修や授業が始まる前の時間帯を生かしての研修に積極的に取り組む雰囲気高め、教職員としての資質・能力向上を図る。 【活動指標】 各自が参加した研修会や担当者会議の内容で汎用性の高いものを中心に、資料等の回覧を行う。 【成果指標】 年8回程度、職員会議後を中心に、時期に応じたテーマによる研修を行う。	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)